



よろこび

2018.6.20 第117号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信



秋山 徹 総幹事

今年4月より、教団総幹事という職に就くことになりました。教団の事務局、出版局と並んで年金局の働きも総幹事の責任のもとにありますので、この大切な働きを中心になって担ってこられた方がたに学びつつ、これから務めを果たしたいと思います。どうぞよろしく願っています。

私は金沢教会、若松教会（北九州）、蕃山町教会（岡山）、上尾合同教会（埼玉）と、途

一致と連帯の絆としての年金制度

日本基督教団総幹事 秋山 徹

中アメリカでの留學生活を含めて、牧師として50年間それぞれの教会に仕えてきました。すでに年金を給付される年齢に達しており、隠退後の年金受給者としての生活設計を考え始める時期でしたが、まだまだ働いて、年金制度そのものを考え支える働きを担う仲間に加えられるのは、神さまの特別な配剤と感謝すべきでしょう。

教団の年金制度は、私たちの世代の牧師が神学校を卒業し牧師として働き始めたころから機能し始めたこと記憶しています。私たちの上の世代の牧師、特に地方の小さな教会を牧会された牧師の最後の生活があまりにも厳しいことを聞きされた信徒の方がたの

熱心な働きがあつて、教団の年金制度を整える過程で年金財政の増強のために、信徒運動として「隠退教師を支える運動」が起こりました。これらの過程を見ながら牧会生活を続けてきたように思います。各教区の総会や教団総会のたびごとに、年金局と「隠退教師を支える運動」推進委員会からの熱心な報告と訴えがありました。歴代年金局理事長の小林貞夫さんや高橋豊さん、そして最近では簗田安晴さんなど、年金局を象徴する方がたのお顔がすぐに思い浮かびますが、堅実な運営に感謝し、ありがたいことだと思っています。はじめてですが、果たして私自身はどれほどのこの制度の維持と運動に対してコミットしてき

たかは、まことに申し訳ないことですが、おぼつかないものがあります。何とか安泰だなと自分のことばかりを考えていたように思います。

しかし、教団の年金制度の発展の過程を考えると、「荒野の40年」と称される教団紛争のただ中でも、瓦解することなく着実に制度として確立してきたことは何と不思議なことと思わざるを得ません。

「謝恩日献金」が献げられ、「隠退教師を支える運動・100円献金」によって、制度に入れなかった方がたにも「クリスマス祝金」が送られる温情あふれる制度が維持されてきたのです。これは、この年金制度が牧師によつてではなく、信徒の方がたを中心に進められてきたからこそ果たされたことだと思えます。現在は、「鰥の口」と言われる、年金支給額の方が年金掛金額を上回つて、その差が鰥の口のように大きく開いているような状態にあつても、何とか年金財政

自体は赤字にならないという驚くべき事態が維持されています。それを支えるためにどれほどの知恵と、教会と牧会者に対する愛が込められているかを思います。まさに、この年金制度が、危うい合同教会である教団の一致と連帯を支える絆として大きな役割を果たしているのです。

教団の年金制度の将来のことを考えると、素人考えでもこれまでの制度設計では考えられなかった事態が起こっていることに気づかされます。日本の社会全体の年金制度の危機と共通の課題、日本の教会独特の現状からくる課題とがあります。制度の安定性が何よりも求められる働きですから、折を得ても得なくても、全てを益として働かせてくださる主を信頼して、また、この通信を通して聞こえてくる受給者の先生がたの「よろこび」の声に励まされながら、そのために私も働きたいと思っています。(あきやま とおる)

「隠退教師を支える運動・100円献金」 推進員になって知ったこと

100円献金は信徒の祈り

中部教区推進員 中田邦雄

私は昨年、2017年度中部教区総会において副議長の前先生より推進委員のS姉と共にO兄の後任の推進員として紹介されました。S姉から2010年発行の『夕べになつても光がある』『隠退教師を支える運動』三十年の歩み』他いくつかの資料を送っていただきました。それらの資料から「謝恩日献金」と「100円献金」の目的、成り立ちを理解していなかったことを思い知らされました。『三十年の歩み』が発行された時の「隠退教師を支える運動」推進委員会委員長O兄が、その序で、「隠退教師を支える運動」は、隠退教師の老後のご生活をお支えるためだけではなく、現役教職が、老後を心配

されることなく、安んじて伝道・牧会に専念できる環境を整える働きでもあります。教団の伝道力が問われている極めて今日の課題に寄与していることを覚えて頂きたいのです。「隠退教師を支える運動」が、優れて伝道活動に参与する信徒の業であることを確信して、「隠退教師を支える運動・100円献金」に加わる志しを起こして欲しいのです。と書いておられました。何も知らなかった私は大きな励ましを与えられました。O兄には感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年10月5日(6日開催)の日本基督教団会議室での2017年度全教区推進協議会に出席しました。沖縄教区から北海教区までの推進委員、推



中田 邦雄 さん

進員が集まり、開会礼拝、推進委員長挨拶、事務局長報告、年金局理事長説明、分団協議、2日目は全体会、総括と閉会祈祷となりました。会議の中での議論や決意の思いなどをお聞きしながら、これからが大切であることを実感しました。特に「隠退教師を支える運動」の発祥地である北海教区推進委員のI兄は草創期よりこの運動に深く関わってこられ、その発言には重みと説得力があり、何よりもこの運動の初穂とも言える一教会の壮年会の方がたの祈りをしっかりと今に受け継いでくださっていることに、私は神さまのご計画がここにもあると

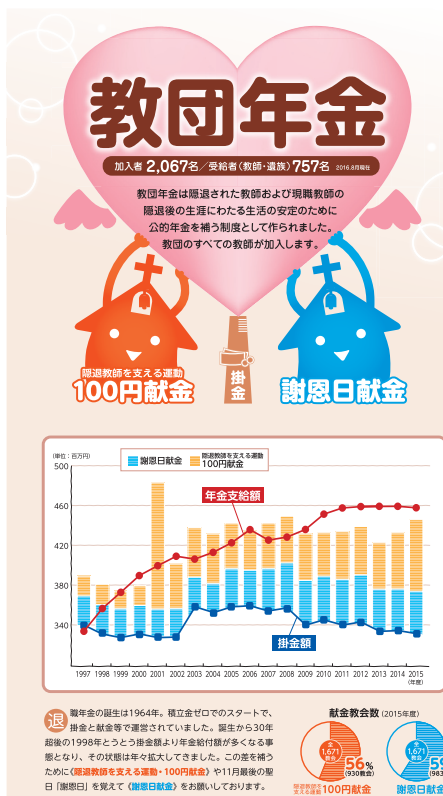
思いました。

2017年10月28日発行の『教団新報・年金特集』、隠退教師近況の中で大阪教区と西中国教区で51年間牧会され隠退されたK先生の近況が寄せられていました。私はK先生が神学部を終え、新任教師として来られた教会に教会学校教師、青年会員としていました。私は高校3年のクリスマスに四国教区の教会で受洗し、明くる年の4月に就職・進学で大阪に出て社員寮近くのこの教会に転会し3年目でした。K先生と教会の青年たちは意気投合し教会学校に青年会活動に明け暮れていました。1965年頃の大阪教区ではそれぞれの教会、地区・教区での青年会活動や職域伝道も盛んでした。2年後にK先生は西中国教区の教会へ転任され、3ヶ月後に私は転勤で関東教区の教会に出席するようになりました。その後も続けてお交わりいただき2つの教会を訪問したこともありました。

この5月の中部教区総会でお会いした教区の2人の先生は、時期は違いますがK先生と同じ地区で牧会されていたことがあり、口々に「K先生には大変お世話になり、楽しかったです」と仰っておられ

ました。K先生は最後の任地で41年間牧会されましたが、最初の任地からお付き合いをさせていただき、大きな恵みに感謝する者です。
(なかた くにお/松阪教会)

隠退教師の生活を支えるために 献金のご協力をお願いします



業務室より

— 年金を受けている方へ — 年金送付のお知らせ

7月の定例送金のご案内をします。

送金内容

① 謝恩金受給者

2018年度第2期分給付額
(2018年7月、8月、9月分)

② 退職年金受給者

2018年度第1期分給付額
(2018年4月、5月、6月分)

送金日 2018年7月10日(火)

期日に、ご指定の金融機関に入金されていない場合は、ご連絡ください。

次回送金 2018年10月10日(水)

住所・年金振込先の変更は、できる限り早急に書状、FAX、メールで年金局にお知らせください。

☆ 2017年度年金局事業・決算報告がまとまり、5月11日年金局監事による監査を受けました。この報告は年金局理事会、教団常議員会で承認後、秋の『教団新報・年金特集』に掲載しますので、ここでは概要のみをお知らせします。約719名の隠退教師・ご遺族に総額4億5,393万円の年金を支給しました。一方、掛金収入は3億2,881万円で、その差1億2,512万円は「謝恩日献金」、「隠退教師を支える運動・100円献金」、資産運用益等で補われています。2017年度の「謝恩日献金」総額は4,120万円で956教会から献げられました。また、「隠退教師を支える運動・100円献金」は6,890万円が941教会から献げられました。全国の教

会・伝道所の皆さまが祈り献げてくださるこれらの献金は、教団教師退職年金制度が健全に継続される大きな財力です。資産運用益は、変化の激しい運用環境でしたが、目標額の121%、5,584万円を計上することができました。「支える運動」からの多額の繰入金、教区協力金、教団からの繰入金、特別献金などのおかげで、2017年度の収支差額3,133万円は積立金に繰入れられ、退職年金積立金は42億5,458万円となりました。

☆ この春隠退され、教団年金受給者になられた方は現時点で26名、再隠退された方は6名です。

☆ 年金局常任理事会メンバーの交代

1年半空席であった教団総幹事(年金局理事)に秋山徹牧師(前上尾合同教会/関東)が就任されました。また東京教区代表理事の木下宣世牧師の西千葉教会辞任に伴い、岸俊彦牧師(経堂北教会)が後任に就かれました。両理事は同時に年金局常任理事に選任されました。

☆ 皆さまのご提出くださった現況届で、病院通いをされておられる方、ホームに移られた方、ウォーキングに励まれている方など、近況を読ませていただきました。桜の春、新緑の初夏を過ごしてきましたが、真夏日、冬日、みぞれなど天候の変化が激しい日々でした。梅雨と続く猛暑の時期となります。皆さまのご健康が支えられ、主の祝福のうちに過ごされますようお祈りしております。(櫻井淳子)

日本キリスト教団 年金局 「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

年金局 Tel: 03 (3202) 2080

Fax: 03 (3202) 2081

mail: nenkin@clock.ocn.ne.jp

支える運動 Tel: 03 (3202) 2081 (Fax 兼用)

mail: sasae@flute.ocn.ne.jp